

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

September 2022

Écoutez Bien Vol.39 No.450

9

ロケは立川 主演は香取慎吾さん



海がもたらす庶民の味

今では高価な食材も、江戸では猫もまたいで歩く

食にかかわる人間模様は、今も昔もそう変わらない。

「食」とともに風情を楽しむ気風が生まれ、文人墨客がこぞって料理屋へと足を運ぶ。一方で、庶民は日々の食べ物に工夫を凝らす。

山東京伝の弟、山東京山が弘化元年（一八四四年）に書いた『蜘蛛の糸巻』には、江戸時代の風俗や町の人々の生活が簡潔にまとめられていて面白い。その中に「料理茶屋」の項があり、外食の歴史が語られている。江戸時代前期には、「江戸に飯を売る店はなかりしを」、天和（一六八一〜一八四）の頃、初めて浅草に「奈良茶飯の店」ができて、人々は珍しがってわざわざ食べにやってくる。だんだん飲食店が増えてきて、約百年後の明和の頃には深川洲崎に「升屋祝阿彌と云ひし料理茶屋」があって、比べるとこ

ひ、中の小亭、又は数寄屋鞠場まであり、庭中は推してしるべし、雪川殿のかくし紋、川此の如く川といふ字の羽織、名あるたいこ持ちは着ざるはなし、升屋祝阿彌、件のごとき大家ゆえ、諸家の留守居者の振舞といふ事、みな升屋を定席とせり、其繁盛今比すべきなし

がないくらい繁盛していたと書いている。読めば、店内の造りは豪邸そのもの。「雪川殿」とは、出雲松江藩主松平宗衍（むねのぶ）の三男で俳人、松平雪川のこと。升屋は通人の通う店だったようだ。

一口に江戸時代といっても、外食が盛んになるまでには時間が必要で、予約なく

深川洲崎に、升屋祝阿彌と云ひし料理茶屋、亭主は剃髪にて阿彌といふ名をつけしは、京都丸山に倣ひたるなるべし、此者夫婦、人の機をみる才ありて、しかも好事成なりしゆえ、基住居二間の床、高麗縁なげし入り、側付を座敷とし、二の間三の間に座しきをかこ



ちよつと店に入って軽くご飯が食べられるのは、江戸中期から後期にかけてのこと。高級料亭ばかりでなく、庶民も外食に親しみ、一膳飯屋が繁盛した。手軽に食べられる料理としてどの店にもあったのが、今でも美味しい「深川めし」。深川の漁師がアサリのすまし汁を冷ご飯にかけて食べたもの。「ぶっかけめし」とも呼んだようだ。江戸の人々はマグロもよく食べたようで、いわゆる「漬け」の歴史は江戸から始まるといわれる。上方の醤油とは異なる濃口の醤油が生み出され、それに漬けるとマグロがおいしいと、さらに冷凍保存のできなかった時代、「漬け」が保存期間を延ばす方法として重宝されたのは納得できる。「猫マタギ」と呼ばれたトロを「漬け」にして、それを焼いたおかずは庶民の味。江戸時代の一膳飯屋、現代でも十分お客を呼べる。

『犬も食わねどチャーリーは笑う』

市井昌秀監督



立川人なら、これは観ないと!

サンサンロードを走る香取慎吾さん。

緑町北公園で寝転ぶ岸井ゆきのさん。

映画『犬も食わねどチャーリーは笑う』は9月23日(金・祝)全国ロードショー。

挟んで二極化というか、そこが面白いなと僕は思っていたんです。かといって、今回は台本上そういう部分がなかったの、南側は全然使えていないのですが。

今回の映画のテーマの1つが「多様性」でした、そういう意味でも立川って魅力的だなと思っていました。アマノジャクな面もあるので、あまり都会の中心に寄りすぎない方が面白いと思ったこともありましてし、主人公が何か夢を追っているというような設定でもない平凡な夫婦なので…、
——普通のふたりなんですよ。

市井 そうなんです。僕自身も、今は地方に住んでいます

——映画を拝見しました。本当に立川をきれいに撮ってくださって感動でした。

市井 立川が無かったら、この映画は成り立たなかったです。

——立川をロケーションに選ばれた決定打は何でしょう。

市井 どこかの町を特定しながらシナリオを書いていただけではなくて、制作部、ロケの場所を見つけてきてくれるチームに相談して、結果、書き上げたものを振り返ると、立川だった、ということです。府中とかも候補には上がっていたのですが、立川ってモノレールがあるのが面白いよねと。それで立川がより強く候補になっていきました。

——モノレールは結構大きなポイントだったんですね。

市井 そうですね。立川の魅力って、僕は北と南でずいぶん趣が異なるところ、同じ駅を

が、調布市とかにも住んでいたことがあるので、23区ではない多摩地域の方が、生活の平凡さが描けるのではないかなと思ったんです。

——緑多い生活空間。

市井 そうです。

——そこに光を当てた撮り方をされていて、とても嬉しかったです。

市井 そう言ういただけると、本当に嬉しいです。すてきな町ですからね。

——緑町北公園も、いつも近所の子どもや保育園の園児しか遊んでいない場所ですけど。

市井 いい公園ですよ。そっか! あれ、IKEAよりさらに奥になるんですね。それでか。

——IKEAまでだって、あまり人は行かなかったですよ、遠くて。でも、今はGREEN SPRINGSという街区ができて、遠さを感じないで歩けるようにはなりました。今回、サンサ

ンロードを使った理由は何だったのでしょうか?

市井 僕はサンサンロードを見て、一発で「ここだ!」と思ったんです。2人が住んでいる様子が想像できたんですね。人間の、夫婦のやり取りの中で汚い部分、醜い部分というのが出てきますが、住んでいる町は小ざれいさがある方が、逆に汚い部分が浮き彫りになるというか。実際、あの夫婦が住んでいそうだというのが一番の決め手でしたね。

——町の中に溶け込んでいる感じがありました。

市井 はい。そう、そうなんです。

——映画の話になりますが、「旦那デスノート」。実在するんですね?

市井 はい。そうです。僕が初めて読んだとき、確かに辛辣な言葉は多々ありますけれど、どこかに滑稽さもあって、奥さんたちは旦那さんのことを投稿することでストレスを発散しています。ですから、どこかで書き手もユーモアがあったりして、ここを膨らませていこうと思いました。

——心の距離が近づいたかなと思うと、ささいなことでまた遠ざかる。夫婦ってわからないものだなと改めて思われました。

市井 自分が創る、これから目指したい映画にも共通しているものだと思うんです。映画って答えを提示するものではないので、夫婦という題材を描こうとした時点で、わからないまま終わるだろうと、本当にただもがいている、何かそのもがいているものさえ映っていれば、この映画は大丈夫だと思った、というか…。結婚はこうだ、夫婦だこうだという台詞や、結婚に対して懐疑的な登場人物の言葉だとかは、僕が、友人だったり友達夫婦だったり、そういう人たちの話の中で拾ってきたりしていると思います。

——離婚届を手にして、香取さんが「僕は日和と一緒にいたいだけなんだ」と言うところ。適齢期の息子や娘、若い人だけでなく、皆さんに

観ておいてもらいたいと思いました。

市井 (笑) よろしくお願いします。

——先ほど「多様性」とおっしゃいましたが、映画の中にも「多様性」がちりばめられていたね。でも、一見すると登場人物は全部一般的というか。

市井 僕はコールセンターで、累積で6年くらい働いているのでわかりますが、そういう世界ですよ。僕は正社員には一度もなったことはないのですが、アルバイトだったり、契約社員、派遣社員でコールセンターに行ったら、最初から「多様性」があって、だけれども均一化されるじゃないですか、同じスクリプトで、同じ言葉使いで。そのギャップが面白いなと思っていて。今回はその平凡な部分をちゃんと描きたいと思っていたから、ホームセンターの香取さんの役どころですが、ダメな部分も平凡さが大事だと思ったので、ありふれた感じを敢えて出してもらいました。

——結婚のシステムに縛られないで、自分たちは自分たちでいいんだと気づく。これが、ん? 今? と、とても新鮮に感じました。今の若い



©2022 “犬も食わねどチャーリーは笑う” FILM PARTNERS

人は、もうとっくに気づいていたのではなかったかと。未だにシステムにとられる若い人がいるのですか。
市井 いや、それは、今回ゼロイチで僕からの発信なので、パーソナルな部分を出していったと思うんです。僕は妻と15年一緒にいるんですけど、紆余曲折、危機な部分もあったので、若い子の中には結婚しないという子ももちろんいると思うし、そこは僕らの夫婦を参考にしつつ、切り出しているからそういうことはあると思います。実際映画ではそこまで謳っていないですが、小説では離婚届を提出しているんです。けれど

一緒に住む。旧姓に戻して。

——ああ、そうだったんですね。

市井 そこを描くと答えになっちゃうなと思って。映画としては、それは蛇足なんじゃないかなと。

——ペットのチャーリーは、なぜフクロウなんですか。

市井 僕が一番最初に作った自主映画のタイトルが『隼』というもので、猛禽類を調べた時に、猛禽類は一度ツガイになったら離れないと。最初、フクロウもそうだろうと思って書いていたんですね。フクロウは裏設定があって、ホームセンターのペットショップに売れ残っていて、2割引きのを日和が買ったという設定なんです。そういったことも含めて、見た目もかわいらしいし、フクロウを飼う夫婦にしたいと思ったんです。でも後々、シナリオを書いている時に、フクロウは実は繁殖期にしか一緒にいないとわかって、これはこれで面白いなと。そういうこともあって、最終的にフクロウにしようと思いました。

——ちょっとショックだったんですが、フクロウのエサは本当に冷凍マウスなんですか。
市井 はい、そうです。冷凍マウスだけではないですが、冷凍マウスが主流ですね。(笑)
——はあ。

香取さんはすばらしいですね。香取さんが先にあって、この

シナリオを書かれたんでしたっけ。

市井 香取さんが主演されることはわかっていて、それで書きました。ほぼアテガキと言えはアテガキに近いのですが、アテガキというのは、俳優さんが、話して、動いてということが想像できて書いていると思うんですよ。香取さ

るって僕の中でパーフェクトなイメージが強いから、香取さんがこんなこと言ったら面白いなとは思ったけれど、実際に動いてしゃべるというのは想像しきれない。完璧すぎて。
——でも、とてもすばらしかったです。

市井 うん、結果、自分が求めていた平凡な男性像を演ってもらえました。

——岸井さんとてもかわいくて、普通の若い夫婦ですよ。どこにでもいるような。ちょっとカッコいいけど(笑)。しかし、香取さんも岸井さんも、よく走りましたね。

市井 そうでしたね(笑)。

——これから立川をロケーションにお使いになれることはありますか。

市井 もちろん、機会があればぜひ。南方面はね、ルノワールとかで打ち合わせをしたりしたんですよ。

——そうだったんですか!(笑)

市井 僕は立川、調布、府中とかすごく好きなので。これからよろしくお願いします。

『犬も食わねどチャーリーは笑う』

9月23日(金・祝)
TOHO シネマズ 日比谷ほか全国公開
立川市内上映館:kino cinéma 立川高島屋S.C.館
妻たちの恐ろしい本音、旦那たちが見たらゾッとするようなエグイ投稿がびっしり書き込まれている、SNSの〈旦那デスノート〉。ある日その存在を知ってしまった田村裕次郎(香取)。気になる投稿のペンネームはチャーリー。妻の日和(岸井)と一緒に飼っているフクロウの名前もチャーリー…ってことは!?夫婦ゲンカのゴングの鐘が、今鳴り響く!!

出演: 香取慎吾(『風待ち』)、岸井ゆきの(『やがて海へと届く』)

監督・脚本: 市井昌秀(『台風家族』)

配給: キノフィルムズ/木下グループ

公式HP: inu-charlie.jp

公式Twitter: @inuocha2022

『犬も食わねどチャーリーは笑う』
公式サイトはこちらから



印譜の中から数ページをご紹介します 2代目が彫ったモノ

半世紀近い時を経て里帰り

「親父のお墓に入れてあげよう」

昨年春、我々の前に突然その姿を現した『印譜』。
匠の手になるゴム印が押された帳面は、持ち主の長男、3代目間宮壽石さんの手に戻った。

昭和初期から戦後までの、立川の歴史の断片を語る『印譜』。2代目間宮壽石さんが彫ったゴム印は、余白がみつからず、帳面の和紙をはがして下地の紙にまで押されている。相当な量の仕事を、全てに手を抜くことなく精巧に彫る。当時、東京でもこれだけの技を持つ印判士は他になく、文字を見れば間宮壽石のものとするぐわかったと言う。「黄綬褒章受章者」であり、「現代の名工」でもある3代目間宮壽石（間宮哲）さんは『印譜』の持ち主だった2代目の長男。当時のことをうかがってみた。

「浅草で祖父が印章店をやっていたんです。母は一人娘だったから、多くいた弟子の中で一番腕が良かった父を婿にしたんですよ。母は私を慶応の幼稚舎に入れたかった。でも士農工商の商に属した我が家では入学が許されなかった。母は私に幼稚舎の子どもたちと同じ服装をさせたんですね。そこで戦争による疎開です。愛知県の山奥に疎開した私は、前を合わせた着物のようなモノを着ている子どもたちと一緒に、半ズボンにブレザーを着て小学校に入学した。東京から来た都会の子を、みんな周りがとても大事にしてくれて、学校の往復は子どもたちが見守って、太ったウナギなど食材は届けてくれて、ひもじい思いなど一度もしない疎開先での暮らしでした。東京から印鑑の仕事が回ってきて、愛知で父はやっていたのですが、戦後ちょっと経って父が立川で店を開くと、天国から地獄ですよ（笑）。その後は一度も天国を見ていないね（笑）。腕がいいから、稼げないんですよ。ひとつひとつにこだわって、自分が気に入るまで、自分が許せるものができるまで、時間をかけてしまいますからね」。

『印譜』を渡すと、「ああ、これは親父の字だなあ。店先に置いておいたこの帳面が、いつの間にか消えていたんです。どこへ行ってしまったのか、誰が持って行ってしまったのかと思っていたのですが、本当に見つかってありがたい。今晩は抱いて寝て、親父のお墓に入れてあげます」とおっしゃっていた。



3代目間宮壽石さん（間宮哲）が印譜を手に

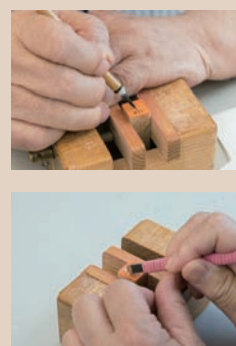


3代目の哲さんが彫ったモノ
1964年の東京オリンピックに合わせた
全国大会で銅賞を受賞したゴム印

7月18日に開催された
錦町のイベントで行われた
野外篆刻教室



指導してもらってお客さんが篆刻する。
うまくできなくても間宮さんが修正してくれてなんとかなる！





青いぶどう、ペチュニア カフェの入口付近で 花、花器とも大森良子

私の立川 私と立川

5

スープカフェ なんでもない日の穏やかな日々

カフェにいらつしやるお客様の中には、店主のまちこさんとの会話を楽しみにしている方がいらつしやいます。お店全体に漂うスープの香りの中で、腰掛けてその様子を眺めていると、私がまだ実家にいた頃、兄夫婦が小さな甥っ子を連れて帰省する時に感じた気持ちを思い出させてくれるのです。玄関を開けると、ふわーっと、ほんのり甘くて優しい赤ちゃんの香り。無条件に私の心をほぐし、穏やかで幸せな気持ちにしてくれる香りでした。無条件に心が優しくなれるなんて、魔法の香りです。

人も同じ。優しい人は強い人だと思えます。人生のいろいろな経験がエッセンスとなってその人の優しさを作り出す。優しい香りにも豊かなエッセンスが混じっているからこそ、人の心を和ませてくれるのだと思うのです。

誰かの心は無条件に幸せにする。そんな絵を描いて生きたいな。



なんでもない日の常連客でイラストレーター たなかあきこ

画：たなかあきこ